

## 芝生と静岡県の芝生の現状と課題

### 静岡県の気候と芝草

- ・ 静岡県の年平均気温は 16.7 度、年間降水量は 1,955.5mm で、北部山岳地帯を除けば全般的に温暖な海洋性気候の環境である。
- ・ ノシバやコウライシバなど暖地型芝草の適地で、標高の高いところでは寒地型の草種にも適地となる。

### 静岡県の芝生の現状

- ・ 都市公園数は 2,280 公園で、このうち芝生広場など踏んで利用できる芝生のある公園数は 517 公園である。
- ・ 学校総数（幼稚園・保育所、公立・私立の小・中・高・大学等）は 2,020 校で、このうち運動場を芝生化している学校数は 82 校である。
- ・ ゴルフ場の芝生地面積は、87 ゴルフ場で、4,280ha である。

### 静岡県の芝生生産の現状

- ・ 静岡県における日本芝の生産量は、昭和 40 年代後半で全国 1 位であった。
- ・ 平成 20 年度の県内の芝生産状況は、作付面積 500ha、産出額 350 百万円であり、その用途は、ゴルフ場が 30%、土木用が 30%、造園用が 40%である。

### 現状からの課題

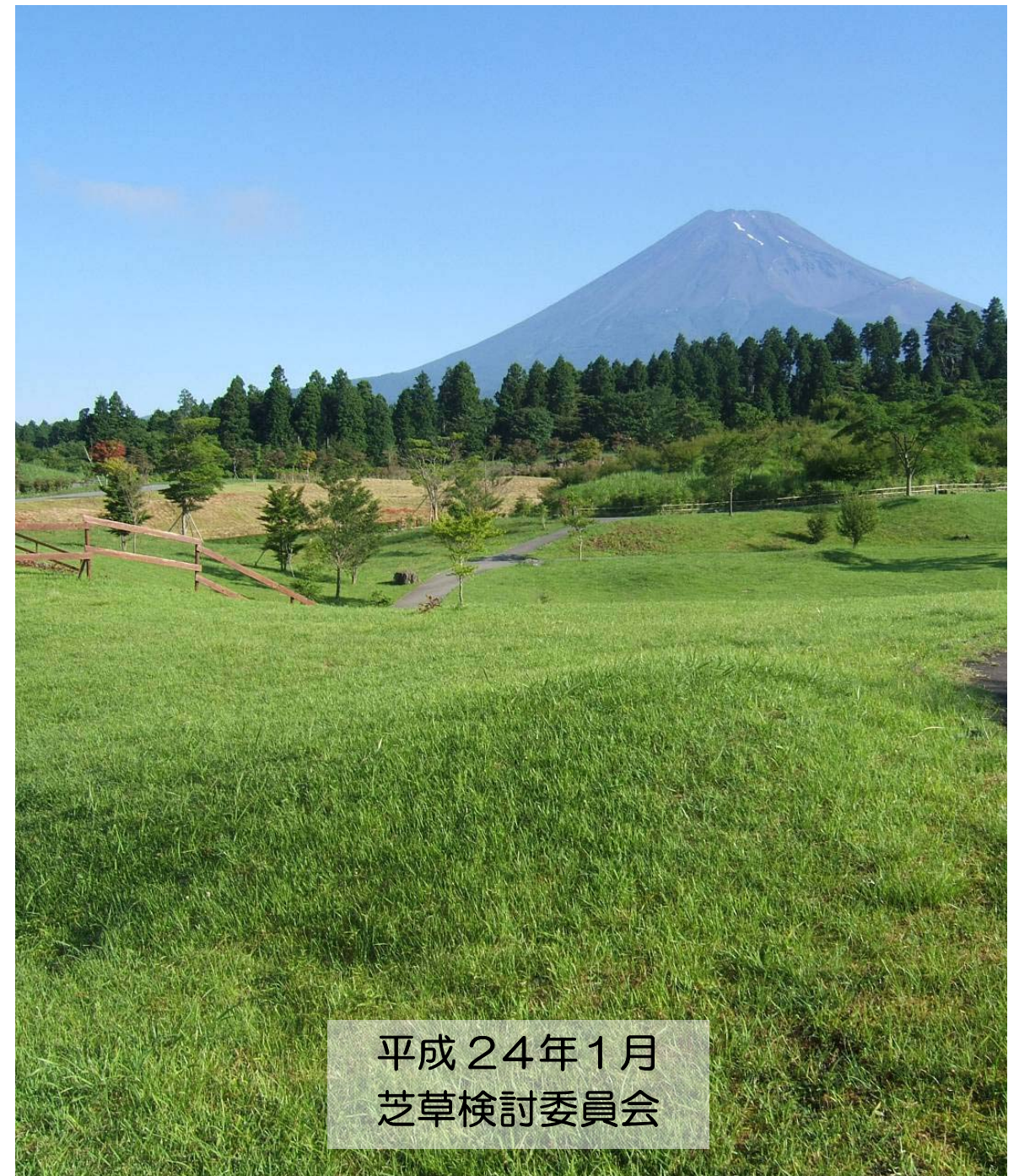
- ・ 植物である芝草や芝生が正しく理解されていない。
- ・ 芝生の管理には、手間と経費がかかる。  
（芝生の絶対量、利用形態を踏まえた芝生の維持の困難性）
- ・ 地域、利用目的に適した施工・管理ができていない。
- ・ 芝生の施工・管理を指導できる人材の不足や支援体制ができていない。
- ・ 芝草や芝生地の良さが理解されていない。

## 国内の芝草研究の現状

- ・ 国、県の機関で芝草研究を行っている研究機関は少ない。
- ・ 大学では、病理、緑地造成の研究の一環として、芝草に関する研究が行われているが、研究を行っている大学数は少ない。
- ・ ゴルフ場関係者等で構成する団体では、会員からの委託研究や病理・雑草・害虫等の研究が行われている。
- ・ 企業では、雑草、害虫、病害、土壌肥料の分野を中心に研究が行われているが、研究を行っている企業数は少ない。
- ・ 基礎研究は、生理、病害虫に関する研究が中心で、品種育成に関する研究はあまり行われていない。
- ・ 管理薬剤資材関係は、除草剤、肥料等に関する研究が中心で、殺虫剤に関する研究はあまり行われていない。
- ・ 近年の傾向として、校庭緑化や屋上緑化に係る研究が進められている。

# “ふじのくに” 発 芝生文化創造プロジェクト のための提言（概要版）

～芝生を活用した魅力ある“ふじのくに”の形成を目指して～



平成 24 年 1 月  
芝草検討委員会



### スポーツの振興



- ・スポーツをする人への直接的な衝撃や転倒時の衝撃の軽減
- ・フィールドの土埃やぬかるみの軽減
- ・競技力や競技成績の向上。

写真: 磐田市提供

### 体験機会の充実



- ・子どもたちには情操教育や自然教育の学びの場を、成人には憩いやゆとりの場の提供

写真: 磐田市提供

### 良好な景観



- ・開放的で明るく美しい景観の形成
- ・四季折々の変化が日本の風土になじみ季節感の強調
- ・人々のストレスを緩和し、心身共に休息の場の提供

### 地域コミュニティの一体化と防災対策



- ・遊びや管理を通じたコミュニケーションの形成や社会参加の促進
- ・コミュニケーションの形成による地域防災力の充実
- ・面的な緑地として延焼防止

写真: 磐田市提供

“ふじのくに”発

## 芝生文化創造プロジェクト

～芝生を活用した魅力ある“ふじのくに”の形成を目指して～

### 産業の振興



- ・都市緑化、環境緑化用の植物として需要拡大
- ・芝の地産地消など地域産業の振興（芝生産、施工管理の関連産業）

### 地球温暖化の防止



- ・蒸発散作用による地表面の気温上昇の抑止
- ・空気中のCO<sub>2</sub>固定やO<sub>2</sub>の供給など大気の質改善



# 静岡県で"芝生文化"の創造を

人類誕生以来、人と草原との関係は、生活の場で多面的に発展してきた。人々の生活が自然から離れるにつれ、自然回帰の願望を反映し、草原利用から芝生地造成へと移り、そのための造成管理技術が向上、進歩し、芝生文化の定着・普遍化をみるに至った。

日本は、多雨の気象に特徴があり植生遷移が明確に進行するため、森林植生が安定し草原植生は少ない。このため、欧州に比較して芝生（草原植生）が安定的に維持される期間が短く、芝生文化の発展が乏しかったと理解できる。

しかし、日本でも古くから、狩猟や野草摘みなどの楽しみ場として草原利用があり、庭園に芝生が導入されて以降、鑑賞・修景、地表面保護などを利用目的とした独自の芝生文化が育った。近代では、欧米の影響も受け急激に芝草利用が盛んになった。レクリエーション利用に比重の高い芝生地は都市公園や緑地に、競技に資する質の高い芝生地はゴルフ場や競技場などに展開した。

芝生は、身近な自然体験、スポーツの振興、良好な景観、地域コミュニティの一体化と防災対策、地球温暖化の防止、産業の振興など、暮らす人々に多大な恩恵を与えてくれるものであり、人とその社会との間で、相互に関連しながら多様な影響を及ぼしている。

当委員会は、静岡県が緑環境創造の一環として県土づくりに芝草や芝生を取り入れることを進め、芝生とふれあい、芝生から学び、芝生地を大切にすることを養い、芝生と県民生活がより密着、調和することを目的とした“ふじのくに”芝生文化創造プロジェクトの立ち上げを提言する。

平成 24 年 1 月  
芝草検討委員会 委員長 廿日出 正美（静岡大学名誉教授）

## 芝生文化創造プロジェクトの方針

- ・次世代を担う子どもたちに「環境教育・環境学習の場の提供」とともに、「自然とのふれあいの場」や「スポーツの場」、さらに「景観の形成」などの観点から、**年間を通じて常に緑である芝生地の創出**を推進する。
- ・まずは、**公園や学校の芝生緑化を促進するための研究調査と合わせ芝生緑化を促進し**、芝生に対する県民理解の醸成を深め、球技場、住宅の庭、企業敷地、遊休耕作地、道路法面などへの**需要拡大**を目指す。
- ・芝生がもたらす効果を活かし、県民生活に芝生を取り入れ、**芝生とふれあい、芝生から学び、芝生地を大切にする心を養い、芝生と県民生活がより密接に調和することで、人が多様に芝生を利用することを普遍的なものとし、“ふじのくに”の芝生文化を創造する。**
- ・芝生の需要拡大による芝生産の振興、芝生に関連する産業の振興を図る。
- ・「芝生先進県“ふじのくに”からの芝生文化の情報発信」と「芝生地の創出による芝生の需要拡大（産業振興）」を進め、将来的には産学連携による芝草研究を目指す。

## 「県民の身近に使用目的に応じた使い勝手の良い芝生地」

使用目的	スポーツ、観賞	学校体育、レクリエーション	自然観察、遊び
草種	ノシバ、コウライシバ、バミューダグラスなどの暖地型の芝草種を中心。使用目的により複数種による構成。〈気候及び使用目的に適応した草種の選定〉		
	限定草種	←→ 複数種、雑草	
形状	使用目的に応じて維持管理が適切に行われ、使用しやすく緑の絨毯が維持されている。使用目的により管理水準がことなる。		
	よく管理された高い水準	←→ 通常管理水準	→ 粗放的な管理水準
場面	ゴルフ場	公園・学校	道路法面
	球技場	企業敷地	住宅の庭 遊休耕作地



## 芝生文化創造プロジェクトの推進イメージ

### 静岡県芝草研究所

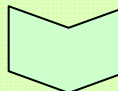
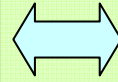
「常緑で管理しやすい芝生」

- 常緑性・耐踏圧性の向上
- 低コストの施工・管理技術の開発

### 静岡県関係各課 芝生緑化関係団体等

「芝生緑化の推進」

- 芝生の普及啓発
- 施工・管理への支援



芝生地の拡がり

芝生の需要喚起

県民意識の醸成

芝生を活用した魅力ある“ふじのくに”の形成

- ・体験機会の充実
- ・スポーツ振興
- ・良好な景観
- ・地域コミュニティの一体化と防災対策
- ・地球温暖化防止
- ・産業振興

芝生文化の創出、発信

産学連携による芝草研究の推進  
総合的・一体的な研究体制の構築

- ・芝草研究（研究調査部門）と研究成果を活かした普及啓発や施工・管理支援（芝生緑化の促進部門）を総合的、一体的に実施できる機関を設置し、取り組むことが理想
- ・芝生緑化を促進し、芝生の需要の喚起を通じ、芝生関連産業の振興を図るなかで、将来的には産業界と連携した研究体制の構築が必要不可欠

## 芝生文化創造プロジェクトの当面の進め方

- ・「芝生緑化の促進」と「研究調査」の両輪により芝生地の拡がりを目指す。
- ・芝生緑化関係団体と連携し、普及啓発や芝生緑化の支援に取り組み、芝生緑化を促進する。
- ・芝生緑化を促進するため、芝草、芝生地、生育環境など多方面から「常緑で管理しやすい芝生」を研究調査する芝草研究所を設置し、芝生地の常緑性・耐踏圧性の向上と低コストの施工・管理技術の開発を図る。

### 芝生緑化の進め方

#### 1 芝生の普及啓発

- 芝生に対する理解（芝生の良さの実体験、芝生に関する基礎知識）
- 芝生地づくり  
（芝生のもたらす効果、施工・管理方法、地域づくりのツールとして芝生の活用事例など）

#### 2 緑化手法・管理手法

- 専門技術者が芝生地の計画・施工・管理を指導する仕組みづくり
- 専門技術者等の養成
- 各現場（使用目的、現場条件）に適した緑化工法による緑化推進
- 使用目的に応じた管理水準による適切な管理の促進
- 地域の芝生地の相互利用
- 芝生緑化に対応した芝の生産

#### 3 施設管理者の負担軽減

- 施設管理者が行う芝生緑化への支援の推進
- 地域住民等との協働の促進
- 芝生緑化を推進する団体等と連携した効果的な支援の推進

### 芝草研究体制

#### 1 研究テーマ

- 公園・学校などの芝生を対象
- 「常緑（\*）で管理しやすい芝生」の研究調査  
芝草、芝生地、生育環境など多方面から、芝生地の常緑性・耐踏圧性の改善と低コストの施工・管理技術の開発

#### 2 研究体制

- 効率的に研究調査を進めるため、人材、設備のある県の既存の研究機関内に設置
- 5年程度の研究期間を目途に、専門の研究員を必要最小限確保
- 大学・民間企業等との連携（共同研究、委託研究等）
- 芝生緑化の推進に関することは、県の関係部局、芝生関係団体等と連携

（\*）「常緑」の考え方 ここでの「常緑」は、芝生地として常緑性を追求（緑葉期間を長く）するという意味である。  
（例）緑葉期間の長い芝草品種の育成、他の草地構成種と合わせ緑の期間の長い芝生地の研究、床土など生育環境の改善により緑の期間を長くする研究、ウインターオーバーシードなど施工・管理技術の開発による常緑の芝生地の研究など